



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2019年 No.2
(通巻59号)
4月14日発行

春爛漫。心華やぐ季節になりました。

皆様方にはお元気でお過ごしのことと思います。

今号のニュースレターは、2019年度年次総会のご報告を中心にお届けいたします。

また、あーすフェスタかながわ2019への参加もお知らせしておりますので、是非お出かけくださいますよう、お願い申し上げます。

年次総会報告

去る3月3日(日)、相鉄線星川駅近くのほどがや市民活動センター(愛称:保土ヶ谷アワーズ)に於いて2019年度年次総会を開催しました。総会では2018年度活動報告と2019年度活動計画を中心に話し合いが行われました。総会終了後には、ディウフ会長が、当日朝、友人から届いたばかりのビデオ(フランスのテレビ局制作のセネガルの小学校の様子を伝えるもの)を紹介しました。また、茶話会では、差し入れのお茶やお菓子を囲んで、なごやかな懇談のひとつきを持つことができました。

以下、主な内容をご報告いたします。

1. 2018年度活動報告

国内活動

2月4日(日)よこはま国際フォーラム2018参加、3月11日(日)年次総会開催、
5月19日(土)・20日(日)あーすフェスタ2018出展、6月23日(土)・24日(日)アフリカ日比谷フェスティバル出展、7月8日(日)セネガルフェスティバル出展、7月14日(土)GQ10周年コンサート出展、8月21日(火)~30日(木)セネガルウィーク出展、9月16日(日)グローバルサンデーマーケット出展、9月23日(日)中区多文化フェスタ出展、10月7日(日)・8日(月・祝)よこはま国際フェスタ出展、10月19日(金)セネガル物語出展、10月29日(月)みなとグループチャリティーコンサート参加、11月18日(日)ほどがや国際フェスタ出展、12月2日(日)AFRICAN CONCERT 2出展

*ニュースレターは、5号、発行しました。

国外活動

*サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ第一小学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、バンブガール・マサンバ小学校、ンガティ・ナウデ小学校、ンガティ・オルディ小学校、ンジャゴ第二小学校、サルム・ジャネ中学校、ジム・モマール・ゲイ中学校、サーバシ・チャム アラブ学校、ンジャゴアラブ学校、ユネスコ・クラブ(クール・マジヤベル聾唖学校)に定期支援金を贈りました。

*タタ・ロッヒンボウ保育園に開設支援として70,000円を贈りました。

*ゴディバ・フランコアラブ学校に図書費として40,000円を贈りました。

*自立支援として、クール・アラサン・ジャロ小学校の鶏小屋計画に100,000円を贈りました。

2. 2019年度活動計画

国内活動

*「あーすフェスタかながわ2019」(出展決定)、「第8回GOSPEL FOR PEACE」(出展決定)、「アフリカンヘリテイジ主催フェスタ」、「今のアフリカ」、「グローバルフェスタ2019」、などに出展を検討しています。

*会主催イベントとして、「福引き2019」を開催します。

10月1日より、福引き券発売の予定

*抽選パーティー

開催日：12月1日(日)を予定

場所：未定

国外活動

*定期支援金については、サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ第一小学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、バンプガール・マサンバ小学校、ンガティ・ナウデ小学校、ンガティ・オルディ小学校に40,000円、ンジャゴ第二小学校に50,000円、サルム・ジャネ中学校、ジム・モマール・ゲイ中学校に80,000円、サーバシ・チャム アラブ学校に20,000円、ンジャゴアラブ学校に30,000円、ユネスコ・クラブ(クール・マジヤベル聾啞学校)に50,000円を贈ります。

*新規の定期支援として、ンジャゴ第二アラブ学校に30,000円を贈ります。

*その他、タタ・ロッシンボウ保育園、ゴディバ・フランコアラブ学校の2校に、合わせて200,000円を贈ります。(振り分けは、今後の連絡により検討)

3. 以下の通り、会則に1項を補足しました。

支援校訪問の紹介または協力について

1. バオバブの会は、セネガルへのスタディツアーを、主催または共催することはありません。
2. バオバブの会は、バオバブの会が支援する学校への訪問または見学について、紹介または協力を行いません。学校は観光施設ではなく教育の場であるので、訪問または見学は、教育活動を妨げたり、学校や生徒に負担をかける恐れがある、という理由によります。
3. 2. の例外として、学校側にとって具体的な教育支援(異文化理解の授業協力、先生方へのワークショップ、学校運営への支援など)を目的とした訪問の場合は、紹介または協力を行う場合もあります。
4. 3. の場合は、書面による正式な依頼を訪問予定日から少なくとも3カ月前に受け、運営委員会で検討し、紹介または協力の可否を決定します。
5. 4. の結果、訪問の紹介または協力をする場合は、条件(写真撮影、写真の扱い、レポートなど)を明示した書面を取り交わします。

以上

イベント報告

よこはま国際フォーラム2019 yokohama-c-forum.org/wpforum/

日時：2019年2月2日（土）・3日（日） 11:00～17:00

会場：JICA横浜

主催：よこはま国際フォーラム2019プロジェクト

<構成団体>（特活）横浜NGOネットワーク/JICA横浜/公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)/神奈川大学

国際協力・多文化共生に関わる団体がセミナーやワークショップを開く、毎年恒例のフォーラムです。バオバブの会は3日（日）の15:20～17:10、「セネガルの人々の寛容性はどこから来るのか ～セネガルのイスラムと教育～」と題したセミナーを行いました。

95パーセントの人々がムスリムといわれるセネガル。ところが、イスラム教のとかく厳格なイメージとは異なり、セネガルのイスラム、また人々の感覚は寛容で柔軟性に富んでいます。その寛容性はどこから来るのかを、様々な例をあげて解説しました。

イベント案内

あーすフェスタかながわ2019

<https://www.earthplaza.jp/earthfesta/index.html>

日時：2019年5月18日（土）、19日（日） 10:00～17:00

*世界屋台村の料理販売は11:00～16:00

*ワールドバザールの販売は10:00～16:00

会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすぷらざ」（横浜市栄区）

主催：あーすフェスタかながわ実行委員会

世界各国の文化紹介や相互理解を目的としたフェスタに、今年も食販と物販で参加します。

食販は会場入口右側の「世界屋台村」にて。メニューは各種イベントで今やおなじみとなった、セネガルの代表的な料理とおやつ。

ヤーサ（レモンの酸味が利いたチキンシチュー、パンにはさんで提供）、マーフェ（ピーナツソースのビーフシチュー、パンにはさんで提供）、ベニエ（丸いドーナツ）、そしてアターヤ（セネガル・スタイルのミントティー）です。

物販は階段上の「ワールドバザール」にて。

セネガルの布バッグやポーチ、アクセサリー、雑貨、絵本や書籍などを販売します。

皆様、お誘い合わせて、是非ご来場ください！

*ブース位置の詳細は、決まり次第、Face Bookページでご案内いたします！

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第29回 アフリカの伝統的な社会の中での平和と寛容

— セネガルを例として —

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

「セネガルの人々の寛容性はどこから来るのか」

これは、2月にJICA横浜で開催されたよこはま国際フォーラムの中で、バオバブの会が行ったセミナーのテーマでした。

冒頭で、セネガルとセネガルの人々を特徴づけているこの寛容性について、以下のようにいくつかの事例を紹介しました。

- ・セネガルは、アフリカでは数少ない、内乱やクーデターを経験していない国のひとつです。
- ・セネガルは政治的に安定した国であり、政権交代もおおむね民主的に行われてきました。
- ・人口の95%がイスラム教徒であるにもかかわらず、第1代の大統領はキリスト教徒でした。第2代の大統領はイスラム教徒でしたが、その夫人はキリスト教徒でした。
- ・セネガルでイスラム教徒とキリスト教徒が平和裏に共存していることのもうひとつの証拠は、イスラム教徒とキリスト教徒と一緒に埋葬されている墓地があることです。このような墓地は、世界中でセネガルにしかありません。
- ・セネガルにはいくつかの民族グループがありますが、異なる民族どうしが、同じ宗派や同じ政治グループなど、どのような場でも問題なく共存し、結婚も普通に行われています。

このように、セネガルの社会の中には共存と調和があるということが出来ます。アフリカと云ったら、異なる民族間の争い、クーデター、戦争、飢餓、疫病というイメージしか持っていない人々にとっては、不思議に思われることかもしれません。多くのメディアが報道しているのは、こういった不幸な事柄ばかりですから。しかし、実際にはこれほどの問題はありませぬ。彼らはアフリカの負の面ばかりを大げさに書きたて、他の顔を隠し、あえて報道しないのです。それは大変に残念な態度です。なぜなら、アフリカとその歴史の優れた面を無視することは、アフリカは人類の母の大陸、つまりすべてが始まった大陸であることを認めず、知らせないことになるからです。すると、人々は、人類の歴史の重要な部分を知らないことになってしまいます。しかし、いずれにしろ、真実を永久に隠すことはできません。「たとえ、嘘が朝早く出発し、真実は夜に旅立ったとしても、真実はすぐに嘘に追いつく」とニジュールのプルの人々は言います。まして今はインターネットの時代ですから、隠すことはできません。同じプルでもマリンに住む人々が、「背の高い草はホロホロ鳥を隠すが、その叫びを消すことはできない」と言うように。

どの部分であれ人類の歴史の一部を認めないことは、大きな損失につながります。それを証明するひとつの事実をあげましょう。

人類は、20世紀に二つの世界大戦を経験したあと、肌の色、出自、属する階層が何であろうと、すべての人間の権利を認め尊重することがいかに重要であるかを、<再発見>しました。それは、1948年12月10日、国連に於いての「人権憲章」制定として結実しました。多くの人々が、その道の研究者でさえ、これは人類の歴史上初めての人権憲章である、と信じているか、あるいは信じるふりをしています。しかし、

それは誤りです。初めてではないのです。私があえて<再発見>という言葉を使ったのはそのためでした。

人類初の人権憲章は、1222年、マリ帝国のスンジャータ・ケイタ皇帝が、即位式の際、宣言したもので、マンデン憲章^{注1}と呼ばれています。マンデン憲章は、2009年になって、ようやく、ユネスコの無形および口承遺産として登録されました。

1222年から1948年まで726年間！なんと長い時間が失われたことでしょうか。このマンデン憲章は、人間どうしの争いで生じた数多くの惨禍の果てに考察されたもので、その目的は、もう二度とこのような不幸を繰り返さないためだったと思われまふ。それならば、マンデン憲章がたとえ<野蛮>だとみなされた人々の中から生まれたものであったとしても、もっと早く注目され、これに値する敬意を払われていたとしたら、たくさんの惨禍が避けられたのでは、と考えることができるのではないのでしょうか。二つの世界大戦もなかったかもしれません。残念でした。

さて、表題の考察に戻りまふ。

アフリカの伝統的な社会では、物質的なものより、社会の平和と調和に高い価値を認めています。なぜなら、社会が平和であれば、日々の平安が保証され、その中で人々は働き、良いものを作り出すことができるからです。そして平和は正義の上のうちたてられますので、アフリカの人々は、正義を確立し、社会の調和を守るための方法を見つけ出そうとします。そのひとつが、よこはま国際フォーラムで紹介した<じゃれ合い>^{注2}です。

じゃれ合いとは何でしょう？それは、互いに冗談を言い合い、からかい合い、時には軽く叩いたり蹴ったりすることです。そして、これは許されているというより、むしろやらなくてはいけないものなのです。

どの社会でも、じゃれ合いのような行為は、通常、親子や兄弟姉妹といった、ごく近い関係の中でしか行われまふ。しかし、アフリカでは、もう少し関係が遠い人との間、例えば<いとこ>との間で行われまふ。このような関係には少し微妙なところがあり、ねたみの感情や争いが起こりやすいので、じゃれ合いを行うことでそういった負の感情を消散させ、争いの危険を避けるためだと思われまふ。また、たとえ争いが起こったとしても、じゃれ合いの関係があれば、争いに終止符を打つのも、恨みの感情を消すのも簡単です。時間と共に何が原因で争ったのかわからなくなり、やがて、争いがあつたこと自体も忘れてしまひまふ^{注3}。

セネガルの場合、このじゃれ合い関係は、家族の中で、異なつた家族どうしで、そして、異なつた民族間に存在しまふ。

1. 家族の中では、3つのタイプのじゃれ合い関係があります。

(1) もしあなたがセネガル人なら、あなたのいとこの中でも、母方のおじの子どもたちと、父方のおばの子どもたちは、じゃれ合いの相手になります。母方のおばの子どもたちと父方のおじの子どもたちをじゃれ合いの相手にすることが禁止されているわけではありまふ。しかし、通常、彼らは、いとこというより、兄弟姉妹のように感じられます。（そのような関係の中でも、じゃれ合い関係ができることもあります。私自身、母方のおばの子どもたちとは、始終、じゃれ合いをやつていまふ。個人的な関係やそれぞれの性格にもよるといふことですね。）

(2) 母方にしろ父方にしろ、あなたの祖父母はじゃれ合いの対象になります。子どもたちは、まだ小さい頃から、祖父や祖母に、「おばあちゃんと結婚する！」とか「そんなこと言つたら、離婚するからね！」などと言つてからかひまふ。

(3) あなたの義兄弟と義姉妹もじゃれ合いの対象になります。新たに家族に加わつた人（たとえばあなたのお兄さんの奥さん）を、まるでその家で生まれたような本当の家族にするために、彼女の兄弟や姉妹が

やってきたとき、彼らにも自分たちの家にいるように感じさせる必要があるからです。このような雰囲気を作るためには、じゃれ合いが一番良い手段になるのです。

2. 異なった家族同士のじゃれ合い

姓によってじゃれ合う相手が決まります。

例えば、私の姓はディウフです。姓がディウフのじゃれ合いの相手は、ファイ、セヌ、ンゴム、バジャーヌの姓の人です。同様に、バチリという姓の人の相手はシー、スマーレ、シビで、ニャンという姓の相手はトゥレ、ファール、ンジャーイとなります。

これらの姓をもつ人々の間では、たとえどこで会っても、また初めて出会った場合でも、互いに<いとこどうし>のように感じ、じゃれ合い関係になるわけです。

3. 異なる民族間のじゃれ合い

セネガルには、ウォロフ、プル、セレール、トゥクロール、ジョラ、マンディンカ…といった民族グループがあります。私はウォロフです。ウォロフの人々はプルの人々とじゃれ合い関係にあります。プルの人々は、また、セレールの人々ともじゃれ合い関係にあります。

そして、私の姓、ディウフは、ウォロフよりセレールの人々の中に多くありますので、プルの人々は、しばしば、私をセレールだと言います。まあ、私は、喜んで出自不明になりましょう。そうすれば、私は、プルの人々にとって、二重にじゃれ合いの相手となれるのですから。

このような社会の中では、人間同士のコミュニケーションがどれほど容易か想像してください。あらゆる機会に人々が笑い、笑わせる社会の雰囲気を思い浮かべてください。このような社会の中では、完全に異邦人である人、孤独な人を見つけるのは難しくなります。ですから、セネガル人はしばしば次のようなことを口にします。「セネガル人はみんな親戚どうし」。「セネガルはひとつの家族」。「セネガルの頭はひとつ。二つには分けられない」。口で言うだけではなく、セネガルの人々は本当にそう信じているのです。これが相互理解と寛容性の源になり、ここから、みんなで一緒に仲良く生きていこう！という思いが生まれているのではないのでしょうか。

注1：マリ帝国は、13世紀初頭より約400年間、現代のセネガル、マリと、ギニア・コートジボアール・ブルキナファソ・モーリタニアの一部にまたがって繁栄した大帝国です。この帝国の創始者であり、伝説的英雄のスンジャータ・ケイタが、即位式で宣言し、口承で伝わっているものがマンデン憲章です。

マンデン憲章では、平等、互いを尊重すること、家族の責任、地域への責任、政治の責任、奴隷制の否定、個人の権利と自由などを謳っているため、人類初の人権憲章とされています。

注2：じゃれ合いは、アフリカで、昔から、いわゆる<いとこどうし>の間に特別な決まりとして存在しています。あらゆる状況の中で、じゃれ合う、からかい合うことが義務のようになっています。社会的な地位や年齢の違い、また性別の違いとも関係ありません。じゃれ合いを行うことで、争いが避けられ、互いに励まし合うことができるのです。

では、どうしてこのような決まりが生まれたのでしょうか？

本文でも書いたように、<いとこ>に代表される親兄弟よりも少しだけ遠い関係には、羨み、嫉妬、妬みといった複雑な感情が生まれやすいところがあり、それが争いのもととなります。このような関係の中で争いが禁じられ、じ

やれ合いが義務のようにになっているのは、そのためだと思われます。つまり、争いのかわりにじゃれ合うことで、このような感情を消すことができるのです。

また、私は、遠い昔、王様か皇帝が、過去の争いの反省からと、将来の争いを避けるために、この決まりを考えて、国内に広めたものではないかと想像しています。じゃれ合い関係にある家族や民族間では、昔、本当に争いがあったのかもしれませんが。争いの後で残った恨みの感情をじゃれ合いで消散させることで、人々は、時と共に、争いの原因も、どちらが勝ってどちらが負けたのかも、どちらが犠牲者でどちらに罪があったのかもわからなくなってしまいます。そして、ついには、争いがあったこと自体も忘れてしまい、なぜかはわからないけれど、特別に親しみを感じる家族や民族どうしとなっているのではないのでしょうか。

注3：社会の中で、争いは避けられません。家族の中で、異なる家族間で、異なる職業の人と、近くの地域に住む人どうし、異なる民族間で等々、たくさんの争いの危険があります。争いがあったあと、何もしなければ、恨みの感情がいつまでも残ることになります。それは、未来の世代が、争いを起こした現在の世代の犠牲となることにつながります。そうなると、人々は、争いと犠牲の終わらない輪の中に閉じ込められ、誰が犠牲者で誰が罪びとなのか、どちらが勝利者でどちらが敗者なのか、ということにいつまでもとらわれ、一歩も前に進めません。

じゃれ合いは、このような不幸を避けるための優れた手段であり、アフリカの知恵のひとつと言えるのではないかと思います。

ボランティアスタッフ募集中！

あーすフェスタかながわ2019出展にあたり、当日のボランティアスタッフを募集します。

短時間のご参加で結構です。また、食販、物販、できるだけご希望にそうようにいたします。

ご協力いただける方は、HP内の「お問い合わせはこちら」よりメールをくださるか、お近くの運営委員までお知らせください。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993 - 35

TEL&FAX 045 - 373 - 0059

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

★HP : <http://the-baobab.org>

★メールアドレス info.the.baobab.assoc@gmail.com

ホームページ内の「お問い合わせはこちら」からご連絡いただけます。

★Face Bookページを開設しています。

イベントや活動の最新情報をより身近に感じていただけるよう、投稿や写真で情報発信しています。ぜひ、フォローしていただけますようお願いいたします。コメントもどしどしお寄せください。お待ちしております！

下記のFace Bookページ名またはURLで検索してください。

Face Bookページ名 : バオバブの会The Baobab Association

URL : <http://www.facebook.com/the.baobab.association>